

社会のマナーやルールは家庭から

プログラムのねらい

マナーを身に付けルールを守ることは、自分と周囲の人を大切にしたい社会の実現につながります。しかし、マナーやルールが習慣となるためには、小さい時からの親の意識づけが必要です。ここでは、日常生活の中で、マナーやルールを子どもに身に付けさせていく親のかかわり方について学習します。

【プログラムの展開例】（時間：60分程度）

	○進め方 ○ことばかけ	留 意 点
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ○自己紹介します。 ○プログラムのねらいや学習の進め方について説明します。  <ul style="list-style-type: none"> ○自己紹介やゲームをして緊張感を和らげたり、参加しやすい雰囲気づくりをします。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己紹介や説明はできるだけ短時間で行うようにします。 ○ゲーム（アイスブレイクなど）が終了する時点で、次の活動にスムーズに移れるようグルーピングしておきます。1グループにつき4人か6人とします。この後のロールプレイのために、なるべく偶数人数のグループにします。 ○導入で時間を取りすぎると展開やまとめの時間が少なくなるので、あらかじめ時間配分を考えて進めていくようにします。 ○ワーク1の3つの例以外に参加者が気付いた事例を出し合うことで身近な話題につなげることができます。
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> ◎「ワーク1」の資料を見て、グループの中で話し合ってみましょう。ここであげられている以外にも例があれば出し合ってみてください。 ◎「ワーク2」では、子どものマナーやルールの意識低下について、その原因や背景も含めて考えてみましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○子どものマナーやルールの乱れと大人の規範意識の関係まで広がるのが予想されますが深く掘り下げて扱う必要はありません。 ○低下の原因や背景だけでなく、意識の高揚を図ることのできる体験談や手立てについても考えてもらうように働きかけます。 ○話し合った内容をまとめてもらい、グループごとに発表し合うことをあらかじめ知らせておきます。 ○子どものマナーやルールの低下は、大人や社会の規範意識の低下に起因するという考えや意見が出ることも予想されます。将来にわたり、よりよい社会を築いていく人間を育てていくためには、家庭教育が大きな役割を担うことを押さえておくことも重要なポイントです。

	<p>○「ワーク3」では、2人組をつくり、親子の役割分担を決め会話形式で話を展開します。</p> <p>◎親役の人は、どんなマナーやルールを身につけさせたいのかをはっきりさせてから会話を始めましょう。</p>	<p>○資料の読み取りは手短かに進めます。</p> <p>○子どもに言い聞かせたいことに優先順位をつけ、親として子どもに守ってもらいたいことを1つに絞っていくと話しやすくなります。</p> <p>○会話につまずいている2人組には助言をします。</p> <p>○役割を交代しながら進めます。</p> <p>○子どもの自主性を尊重しながら、押しつけや詰め込みではない言葉かけが大切です。子どもの言い分をよく聞き、マナーやルールを親子で作っていくという家庭での雰囲気子どもに責任感を抱かせることを伝えます。</p> <p>○親役の話し方で、参考になる話し方があれば子ども役の人から紹介してもらうようにします。</p>
<p>まとめ 10分</p>	<p>○①のチェックの仕方を説明し記入します。</p> <p>○②の活動を説明します。記述に移ります。</p> 	<p>○ファシリテーター（学習支援者）が設問を読みながら、記入していく方法も考えられます。</p> <p>○親や保護者が、家庭でマナーやルールを身につけさせようとする時、どのような点に気を付けて生活していくかという観点から考えるようにします。</p> <p>○記述に関しては、プログラム集P85の資料「ルールってだれのためにあるんだろう」を読むと参考になることを伝えます。</p> <p>○書き方は指定しませんが、考えついた内容を箇条書き程度で書くことも考えられます。</p> <p>○記述した内容の中で、家庭でぜひ実行したいと思うようなことがあったら、何人かの参加者に発表してもらうことでまとめをします。</p>

※ 設定時間が短い場合には、ワーク1、2を中心に流れを考えるようにします。